

人間国宝の天田昭次師が死去

当組合顧問で、刀匠・重要無形文化財保持者（人間国宝）の天田昭次師（本名誠一）が6月26日、肺炎のため、新潟県新発田市の県立新発田病院で亡くなられた。85歳。

天田師は昭和2年、天田貞吉刀匠の長男として生まれ、小学校卒業と同時に上京し、栗原彦三郎の主宰する日本刀鍛錬伝習所入門。作刀の空白期を経て、27年に講和記念刀を製作した。現状に飽き足りず、34年から一貫して自家製鉄に取り組む。52年・60年・平成8年の3度、新作刀展覧会で最高賞の正宗賞を受けた。作風は山城伝・相州伝・備前伝と、それぞれ異にしている。全日本刀匠会理事長も務め、9年に人間国宝に認定された。11年、勲四等旭日章を受章。15年には新発田市の名誉市民となった。著書に『鉄と日本刀』（慶友社）がある。

ご冥福をお祈り申し上げます。（評伝は次ページ）



■全刀商の活動紹介 金融委員会 交換会の金融を一手に担う

毎月十七日の交換会で組合事務局と売り方への小切手発行、商工中金からの借り入れを行うのが俺、綱取と、服部晁治氏が行う金融委員会の仕事だ。

き、約束手形の借入金額と支払期日を決め、捺印した受取証の控えと手形の耳を受け取る。当座または普通預金の状況把握、組合事務所への持ち込み鑑定と売却依頼に対応すべく、その機動性は服部氏ならではの判

生誕二百年記念「清磨展」巡回開催される

清磨生誕二百年を記念して、「清磨展」が静岡県・佐野美術館を皮切りに、八月三十一日から来年四月六日まで、清磨ゆかりの地などの美術館で巡回開催される。

この展覧会には、文化庁所蔵の山浦環正行銘の刀、公益財団法人日本美術刀剣保存協会所蔵の源秀寿（為斎藤主人作之）銘

の短刀、真田宝物館所蔵の信濃国正行（窪田清音佩刀）銘脇指をはじめ、全国の清磨愛好家秘蔵の名刀が総数五十八点出品される。

清磨初期の作品から、武器講時代、萩打ち、信州小諸打ちと続き、江戸に戻ってからの清磨の最も充実した時代の作品、そして清磨最後の作品と言わ

れる嘉永七年正月日の刀まで、二十五年間すべての時代の作品が年代順に展示されるので、作風の変遷もよくわかる。空前絶後の清磨展と言っても、過言ではない。

また今回は、刀・脇指・短刀ばかりでなく、きわめて珍しい薙刀・槍・小刀も展示され、興味深い。

さらに、今回の展覧会の準備過程で、清磨に関する貴重な資料も数多く発見された。それらに関して、図録に詳しい。図録では一振一振に丁寧な解説が加えられ、各作品の最も清磨らしい部分が拡大写真で紹介されており、参考になる。

巡回展示により多くの方々に鑑賞の機会が開かれ、清磨の真価が広く理解されることが期待されている。（冥賀吉也）

特徴の顕著な清磨の地刃

断力が必要となる。

そしてもう一つ緊張する仕事、それは預かった現金を口座に入れることだ。交換会当日、現金で決済してくれた組合員の現金

前日までに前の月の買い分を振り込みます、当日現金をお持ちになる組合員の現金、これらが二十三年度には二千三百万円にも膨れ上がり、私生活では触ったことも見たこともないような金額を自分の職場に持ち帰った

り運んだりすることとなった。不幸にも俺は金持ちではない。また幸か不幸か、金持ちには見えない。伊波常務理事が持っているハンドルの左右にダイヤルが付くような黒革ケースは持ち歩かないが、例えば俺がジュラルミンのケースを持ち歩いた場合、その中に大金が入って

いるとは見えず、古いロックの好きなおっさんがギターエフェクターやケーブルを入れてるよう

うに見えてしまうのだろう。ああ、自分の風采という実に簡単なことに気づかなかった。俺がこの委員を仰せつかった理由はこれかもしれないぞ。

さて、強盗や置き引きには相手にされない俺だが、金銭や物品を目的としない奴に襲われそうになったことがある。カナメ

スタジオでカタログ撮影終了後、島田理事から被写体の高額刀装具を職場に持って帰るよう指示が出て車に乗せたときの話だ。

カタログ作成委員会の話は酔っ払いと電車に乗る素面な俺の話をしたが、「その2」として

近号にお届けできればと思ってる。（綱取譲一）

●賛助会員紹介●

本欄は広告ではありません。当組合の趣旨に賛同し、賛助会員になってくださっている方々を、本人の申し出に従ってご紹介するものです。（順不同）

より美しく、より高貴な刀に
刀剣研師
白木良彦
〒135-0045 東京都江東区古石場1-2-7
☎03-3643-3228



遠き日に、名刀展出品断念、今誰も見たことのない鑢作り
金工
吉川興一
〒355-0357 埼玉県比企郡ときがわ町田中273-4
☎0493-65-4310



何度見ても飽きない研ぎを…
研師・東京都銃砲刀剣類登録審査員
阿部一紀
〒113-0024 東京都文京区西片2-16-5
☎03-3814-8607
5454turugi@live.jp



一生懸命研磨します
研師
井上聡
〒662-0071 兵庫県西宮市桜町1-69
☎0798-71-5359



作者の思いを受け止め、より美しく
御刀研師
高岩節夫
〒124-0005 東京都葛飾区宝町2-18-15
☎03-3693-5725
jpssetsuot@hotmail.com



刀の話をしませう
廣井章久
〒170-0012 東京都豊島区上池袋1-13-12
☎03-3917-1842



心を込めて研磨いたします
刀剣研師
森井鐵太郎
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原3116-180
☎04-2952-6355
kenma.te.m@gmail.com



- 「清磨展」開催予定
- 佐野美術館 〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278
会期：平成25年8月31日(土)～平成25年10月6日(日)
 - 信濃美術館 〒380-0801 長野市箱清水1-4-4 ☎026-232-0052
会期：平成25年11月9日(土)～平成25年12月10日(火)
 - 萩美術館 〒758-0074 山口県萩市平安古586-1 ☎0838-24-2400
会期：平成25年12月21日(土)～平成26年2月9日(日)
 - 根津美術館 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 ☎03-3400-2536
会期：平成26年2月26日(水)～平成26年4月6日(日)



風向計

其之八

深海 信彦

「アベノミクス」が掲げる三本の矢、すなわち、①大胆な金融政策、②機動的な財政政策、③民間投資を喚起する成長戦略、は政権発足後半年ですべて放たれ、三本目の「成長戦略」は四〜六月の三カ月間にわたって三段階に及んで射られた。

その結果、経済諸指標を見る限り、効果が確実なものであることが裏付けられてはいるが、今後も切れ目なく持続的に経済再生への対策、言うなれば次なる強い矢が放たれることが期待されている。

日本経済とわが業界の再生策は勿論、同日には論じられないが、わが方には果たして射る矢はないものか。「アベノミクス」の成功例を組合の場合に置き換えて眺めてみよう。

まず①「大胆な金融政策」ということは、取引銀行である商工中金からの借り入れを増やし、交換会の立て替え払い金を増大させることや、組合が資金を借り入れて組合員に転貸する、いわゆる多数転貸を実施するということなどに当てはめることができる。

交換会の立て替え資金は、現在の一月延べ払い制では極端に増大させる必要はないが、一月を二月延べ払いにし、それに伴って買入れ限度額を増大させれば、今以上に立て替え払い資金は確実に増大する。延べ払い期日を延ばし、買入れ限度額を増やせば、出来高は増

加して歩金収入は増えるが、それだけリスクも増加するということになる。また、多数転貸も金利という形で組合に利益をもたらすが、リスクも当然あり、技術的にも困難であったため、平成三年以降は実施していない。

②「機動的な財政政策」も、金融政策ときわめて関連性が高い。例えば「大刀剣市」のような催しに資金を投入して規模を広げ、組合の認知度を高めるとともに売り上げの増大を図ることや、買入れに関する情報発信量を増やし、組合への評価鑑定を持ち込み来客者の増加を図るなどのことも考えられよう。

組合の買入れが増加すれば組合に売却利益が出るので、組合員にとっては初見のウブ品を入手できるわけであり、リスクはないと言える。

さて最も大切なことは、③「成長戦略」の知恵を拝借できないかということであろう。

成長戦略の第一弾は女性の活躍、第二弾は「世界で勝つ」をキーワードに規制改革や農業政策、第三弾は民間活力の爆発であった。

女性の活躍については刀剣業界も数人の活躍を見ており、現在には組合の理事にも設立以来初めて女性が選ばれている。女流刀剣商が増えることにより刀剣の安全性や合法性もより浸透すると考えられるので、増加に向けての取り組みも必要であろう。第二弾の「世界で勝つ」ため

の規制改革と言え、刀剣の輸出入手続きや、登録証の名義変更に関する規制緩和を強く訴えることが発展に直結するので、この点については組合執行部がどれだけ行政官庁やその機関との交渉能力を持つかが問われるところであり、成長戦略の要でもある。

第三弾の民間活力の爆発ということとは、組合で言えば主に若手を中心とする次世代を担う刀剣商の積極的登用ということでもある。年が若い、業歴が浅いということ、商売の規模も小さく、参加できる交換会も限られている有為の刀剣商に機会を与え、さらに商売以外にも組合活動における奉仕の充実感も体験してもらい、商いととも

人としても大きく成長するよう導くということが、将来の業界の成長には不可欠である。

このように見てみると、金融政策・財政政策においてはリスクを伴うが、機動的な政策や成長戦略については、今後の努力によっては推進し得る可能性があり、比較的副作用のない政策と言え得よう。

「言うは易く、行うは難し」の言葉通り、行うには時間と人が必要である。国でそれらを担う人は総理大臣をはじめ、すべてが有給であるが、組合は無報酬である。成長・発展していくためには、報酬を支払ってでも有能な実務者の存在が必要であることは自明の理であり、成長戦略の可否は組合の場合、ここに懸かっていると一言で過言ではない。組合員全員でその矢を射る方策を練るべきであろう。

〈評伝〉天田昭次 さん

「永遠の究道者」を宿命として

天田さんが亡くなった。85歳という、常人なら天寿と言え人生であるが、巨星の最期はあまりに喪失感が大きい。

天田さんとのやりとりは昭和45年の夏ごろ、駆け出しの編集者であった私が受けた1本の電話に始まる。「師匠の栗原彦三郎を取り上げてもらえませんか。」

思えば、あれから40年を超えている。その間にずいぶん長い時間を割いて、いろいろな話を伺った。師匠のこと、赤坂の日本鍛錬伝習所時代、同門の人々、終戦前後のこと、自家製鉄の苦闘、そして何より地鉄の追究……。

『日本刀を二度蘇らせた男—栗原彦三郎昭秀全記録』は30年越しに果たせた約束であり、天田さん自身の著書『鉄と日本刀』編集のお手伝いもすることができた。「永遠の究道者」は、その解題で使用した造語である。

天田さんの作刀修業は12歳に始まるが、作家としてのスタートは昭和29年、27歳からである。しかし、それはいかにも古作のカベが打ち破れぬ現代刀の隘路との闘いであり、その根源を「鉄」に求め、ひとすじに究めてきた。

作家に永遠はあり得ないが、作品は永遠である。また、作品に込められた志も永遠である。一振の刀が指し示す遠方の高い極みに向かって、後進が挑戦し、いつか征してくれることを、天田さんは心から願っていると思う。(土子民夫)



ふるさと自慢 第3回

● 栃木県小山市

天下分け目の小山評定

瀬下 昌彦

東京より東北新幹線で約40分のところに栃木県小山市がある。現在、小山市では小山評定にちなんで「開運のまちおやま」と命名し、小山市の魅力を全国に発信している。秋には、「おやま開運まつり」が開かれ、甲冑パレードなども行われている。

JR小山駅西口から西に五百メートルほど歩くと、小山市役所が見えてくる。その敷地内に石碑が建つ。歴史的に重要な場所「小山評定跡」である。

慶長五年(一六〇〇)七月二十四日、徳川家康率いる軍勢は、会津の上杉景勝を討つべく小山に到着した。このとき、石田三成が家康打倒の兵を挙げた

ことを知り、翌二十五日、この地において家康公を中心に本多忠勝・井伊直政・福島正則らの諸将が集まり、軍議が開かれた。その結果、上杉討伐を中止し、西上して三成と戦うことを決め、関ヶ原合戦へと挑むのである。これが「小山評定」と言われるものである。

この出来事をきっかけに、徳川家康は関ヶ原の戦いで勝利を収め、天下統一

を成し遂げて徳川幕府三百年の歴史が始まるのである。まさしく「天下分け目の関ヶ原」ならぬ「天下分け目の小山評定」。

水と緑の豊かな、私の住む開運のまち・おやまの案内でした。

■ 丸英美術刀剣店 〒329-0214 栃木県小山市乙女三十七三〇 ☎0285550158



小山評定跡の由来が記された石碑

刀剣・小道具・甲冑武具

目白 **飯田高遠堂**

代表取締役 飯田慶久

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本

松本 富夫 義行

〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950

www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株)日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**

〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037

<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先 **090-8845-2222**

代表者 高島吉童

東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

www.premi.co.jp

刀 剣 界

コレクター紹介

前田 日明 さん

●元総合格闘家は愛刀家としてもビッグ!

例年になく早い梅雨入りとなった五月の末、総合格闘技の黎明期に活躍した元プロレスラー・総合格闘家の前田日明さんを渋谷区道玄坂の事務所にお訪ねしました。

前田さんは、プロレス界にキックボクシングやサンボの要素を取り入れ、格闘技を日本人にとって身近なものにさせるとともに、プロモーターとして格闘技の大規模興行を成功させ、そのノウハウをK-1に受け継がせた方です。現在はリングスのCEOを務めています。

お目にかかった最初の印象は、わっ、大きい。一九二センチの身長と厚い身幅に圧倒されつつ、インタビューは始まりました。

前田さんは昭和三十四年生まれ五十四歳。釣り用に小型船舶を所有している、読書家作家の山田詠美氏とも交流がある、航空機が好きでフライトシミュレーターを続ける、骨董に造詣が深い、など多彩な趣味をお持ちです。殊に日本刀の収集と研究に熱心なことは、業界のみならず広く知られています。

「海外のコレクターや格闘家仲間にも日本刀の素晴らしさを伝えているんです」と、笑顔で話は始まりました。リング上で暴れ回っていた記憶から、恐る恐るの訪問でしたが、お会いして五分も経ないうちに前田氏の

優しい人柄に触れ、すっかり虜になってしまいました。

前田さんが初めて日本刀を手にしたのは、二十四歳の時。後援者の方から譲られた無銘の清光だったそうです。その後、道場に通う途中の古書店で旧版の『日本刀講座』(雄山閣出版)全二十五巻を入手した前田さんは、読み進めるうちに、刀の奥深い魅力にすっかりのめり込んでしまいました。リング界での活躍と並行して、コレクションも増えていきました。

前田さんの刀好きが内外に知られてくると、悪い影が忍び寄るように、見ず知らずの刀剣ブローカーたちが訪ねてくるようになったそうです。「勉強代に数千円納めてしまいました」と苦笑されていました。

前田さんの日本刀収集と研究の日々は三十年に及びます。平成十年に訪米した際、長船康光の刀を「これは本物だ」と確信して購入、日本に持ち帰り、研磨した上で審査に出すと案の定、合格だったことも。

収集刀には現代刀もあり、千葉の松田次泰刀匠への注文打ちを、何と三尺三寸三分の太刀を、しかも二振。お母さんの生まれた兵庫県の千種川砂鉄と、茨城県・鹿島神宮の御神水を自ら採りに行き、製作に提供されたそうです。

完成して手にした大太刀は、



サッと鞘を払い、エイッと振って格好良く鞘に収めたところ。」「もっと大きな太刀でも実際に使われたことがわかりましたね」と、体験に基づいた見解も披露されました。

前田さん曰く、「格闘家にはなぜか日本刀が好き人が多いですよ」

これは大発見でした。今日の私はあくまで取材記者のはずでしたが、つい反応して身を乗り出します。レスラーやボクサー、武道家を訪問すれば刀を買ってもらえるんだ、でも前田さんのように優しい人ばかりじゃないぞ、こりゃ命懸けの営業だ、などとおバカな思いを巡らせながら伺っていました。

前田さんが三十年間に出合った思い出の名刀と数々のエピソードを聞いて、約一時間の取材は終わりました。中でも、日本刀の将来が心配であると真剣に

繰り返されていたことが強く印象に残っています。

「未来を担う若い人たちに日本刀を見てもらい、魅力を伝えていかなければならない。本場に刀がわかる人が少なくなっている。現状を改めてファンを育てていかないと。外国人の方が日本文化を高く評価している。良い刀が海外へ流出すると戻ってこない。二十年後には大変なことになってしまふ。私にできることがあれば、何でもやりたい」と。

こういう方が本当の収集家なんだと、あらためて感じました。長く受け継がれてきた日本刀を後世に伝えていく責務が、私たち刀剣商をはじめ、刀剣収集家や刀剣に関わるすべての人たちに求められています。

久しぶりに爽やかな感動をかみしめながら帰路に就きました。

(生野 正)

刀剣商リレー訪問⑫

三浦優子さん

女性の視点で「日本刀の勧め」

交換会場でパンツスーツの似合う笑顔の素敵な女性刀剣商と云えば、誰も異口同音に三浦優子さんと語るに違いない(こりゃ大平岳子新理事が怒るな)。今回のリレー訪問、珍企画でサイクリストを自称する綱取譲一が、自転車に乗り東松山市高坂の三浦さんの職場を訪ねるロングライドとなった。

日曜の朝八時三十分、世田谷の自宅を出発し、着いたのが十一時三十分、距離六十二キロ。目的地手前十キロ地点から道がわからなくなったが、地図を何度も見ながらたどり着いた。もはやGPS付き多機能携帯や自転車ナビの時代に、背中に地図を背負っているのは俺ぐらいのものだな。自宅に戻ると百二十四キロか、軽い軽い。

地元の美味しいサンドイッチと野菜ジュースをごちそうになりながら伺った話によると、二十年前に高坂の地に不動産業として開業。六年後に美術品・刀剣ヘスイッチしたそう、現在に至る十四年間の実績を持つという。その間、埼玉県比企郡の、しぎ美術刀剣美術館の大沢都志夫氏に営業のノウハウと鑑定指導を受けた。

彼女の現在の堅い仕事ぶりを見れば、納得がいく経緯だ。現在陳列中の商品を見れば、拵付きの刀剣、象嵌や高彫りの施された刀装具が目につくところに置かれ、女性らしい気配りを見せている。

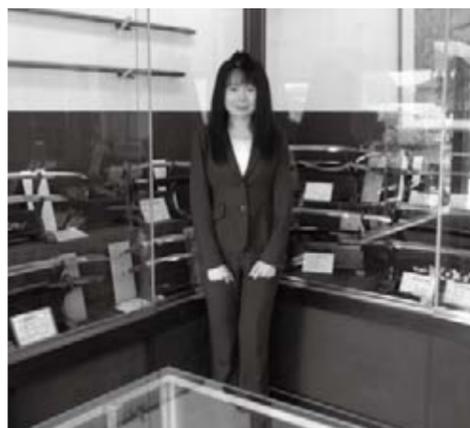
いつも笑顔で陰りを見せたこ

とのない三浦さんだが、高坂の地に来たばかりのころはよそ者扱いされた苦い経験を持つ。畑仕事を手伝い、道端に花を植え、地元の人々と触れ合うことを心掛けたというから驚かされる。確かに、客足が絶えることがない環境かと言うとそうではない。そう、すぐ外を見れば住宅と農地が混在し、さらに遠くに目をやれば秩父の山々まで見渡せる。秋が深くなると、農家の軒先に簾のように柿が吊るされる。そんな日本の原風景もすぐそこにあるような環境下で、三浦さんは頑張っている。

同業者という立場の組合員の皆さんからも、彼女にエールを送ってほしい。この日も常連さんから「楽しんでるよ」という電話があり、弾んだ声で対応する姿に商売人の基本を見た気がした。

かつて美術刀剣青年会に彼女が初めて来たときに、伊波賢一理事が言った「三浦さんって人懐っこくていいですね」という言葉も、彼女からにじみ出ることの基本の「朗らかさ」の部分を受け止めたから出たのだろう。

帰路、全体の百三十キロメートル地点、和光市から練馬区に入る笹目通りの上り坂、大した坂じゃないのに効く。さすがに五十四歳には強い日射しの下



優古堂店内の三浦さん



筆者と三浦優子さん

百キロ以上のサイクリングはきついか。往路は、俺みたいな中年でも、アイドル刀剣商三浦さんに会うことを目標にペダルも軽かったが、帰りは重いな。昔、雄犬が雌犬に会いたくて川を泳いで渡るのが話題になり映画にもなっていたが、何だか俺ってあの犬に似ていないか? ここでビンディングを外し、足でも着いたら、体力とスタミナを計算できない犬より間抜けな奴になってしまふ。何か帰路の励みを考えなきゃな。家に着いたら、近所のスーパーで売っているカツオの叩きで一杯やるか。何だ! やっぱ猫や犬と俺は同じだな。

優古堂 TEL:051-0047 埼玉東松山市高坂七九一〇四九三三五五五九

(綱取譲一)

若者広場

小宮光敏

刀匠一族 そして研磨の教え

だきました。

富士山が世界遺産に登録されました。日本刀もわが国の文化を代表する一つとして、世界中の人々にその芸術性、素晴らしさを知ってもらいたいものです。

私の家系は江戸時代後期、柳川藩立花家の抱え工であった信濃守武藤久廣を遠祖とし、孫の小宮四郎國光から小宮の姓を継ぎ、現在では一族五人が作刀を続けています。私は子供のころから刀職に就くものだと思っ



育ち、刀匠を継いだ兄や一族の助けになればと研師になることを決め、藤代興里先生の門を叩きました。

修業に入ってみると、すぐに刀の魅力に引き込まれていきました。研師になるための最初の教えは、刀の魅力に気づくことだったのかもしれない。

今でもいい刀を見せたいだけでなく、感動で鳥肌が立ちます。特に佐野美術館でガラス越しながら生駒光忠を拝見したときの感動と衝撃は、今なお心に深く刻まれています。いつか手に取って拝見してみたいものです。

刀匠研について、師匠より本当に多くのことを教えていた。最後の十年間でたくさんの方々にお会いし、たくさんの方々の話を聞かせていただき、お話しすることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。これから

もご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひします。

■連絡先 〒283-7090 福岡県大牟田市大字倉永一〇五一
〇九四四一五八四五六八
<http://www.shinokunimitu.com>

一筆啓上

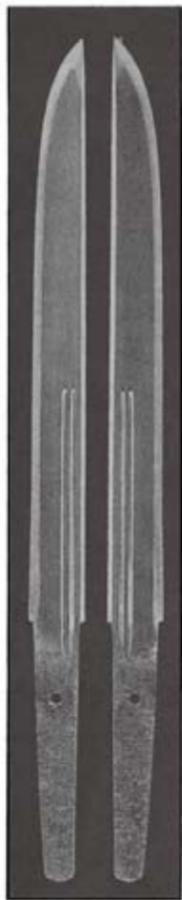
今回寄稿していただいた小宮光敏さんは、昭和五十九年生まれ、二十九歳。天明六年(一七八六)

から続く刀鍛冶の名門、小宮家に生まれ、刀鍛冶の家族に囲まれて育つ。平成十四年、刀匠研磨の名門、藤代興里氏の元に入門し、本年四月、十年間の修業を終えて地元福岡の地で独立したばかりの新進気鋭の若手研師である。

修業時代からその明るく人当たりの良い性格で同業や愛刀家の方々からも可愛がられ、また日刀保の本部定例鑑賞会や東京都支部鑑賞会にも運営側として積極的に参

加し、名門藤代の名に恥じぬ研磨技術と鑑定眼の両輪を磨いてきた。本年満を持しての帰郷となり、同家六代目の兄、小宮治氣刀匠とともにこれからの活躍が大いに期待されている。

受賞歴 公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催「刀匠研磨・外装技術発表会」努力賞、公益財団法人日本刀文化振興協会主催「新作日本刀・刀職技術展覧会」銅賞・佳作。(飯田慶雄)



所在不明だった「岡山藤四郎」とみられる短刀「東京国立博物館提供」

「吉光の名刀」だった?

東京国立博物館 所蔵

豊臣秀吉や徳川家康を経て尾張徳川家に伝来した後に所在不明だった「岡山藤四郎」とみられる短刀を東京国立博物館が所蔵していることが、同博物館の酒井元樹研究員の調査で二十六日分かった。

上品な輝き、調べたら...

岡山藤四郎は鎌倉時代、刀剣リスト「享保名物帳」(名古屋)の調査で、京都の刀工「粟田口吉光」として値が付けられないほどの名刀と位置づけ、刃長十四代の徳川慶勝から親王時代に將軍と大名との間で授受され、作品の一部は皇室の所蔵物や国宝になっており、岡山藤四郎もそれらに並ぶ名刀として評価されていた。



粟田口吉光 鎌倉時代に活躍した刀工。短刀を中心に作品を残し、江戸時代には相州正宗(そうしゅうまさむね)や江義弘(こうよしひろ)とともに刀工のベストスリーに位置づけられた。

一部は皇室の所蔵品や国宝・重要文化財に指定されている。

江戸時代に記された名物帳に「吉光の短刀」とあり、吉光の名は小早川秀秋が岡山酒井研究員が「これほど美しい刀剣なら昔の文獻に載っているはず」と調べたの通称「藤四郎」に由来する。今回調査した短刀(刃長二五・八センチ)は以前、皇室が所蔵、終戦後に東博所蔵になったことは分かっていたが、短刀の詳しい歴史は不明だった。

刀職紹介 第11回

〈研師〉 是澤光昌さん



是澤光昌さん(本名徳昌)は、昭和四十年生まれの四十八歳。愛媛県喜多郡内子町の、研磨など刀職に關わる仕事を家業とする家に生まれた是澤さんは、お祖父さまが研磨をされている姿を見て自然と刀匠研磨の道を目指しました。

高校を卒業後は、人間国宝の永山光幹師が主宰する永山美術刀匠研磨研究所へ入所、四年間の修業を経て愛媛のご実家で開業されました。その後、さらなる技術の向上を目指して、兄弟子である齊藤光透師の元で四年間の再修業をし、平成九年に相模原市で独立しました。

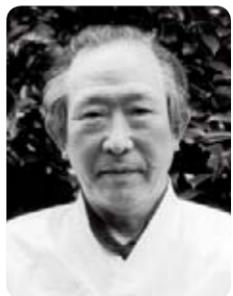
その後、日本美術刀剣保存協会の刀匠研磨・外装技術発表会にて最高賞である木屋賞をはじめ、千葉賞・協会会長賞などの特賞を五回受賞するなど、華々しく活躍されています。

是澤さんは、研磨に臨むのは二人の師の教えである「晴れた研ぎ」を心掛け、特に下地に気をつけながら刀の持ち味を引き出せるよう、誠心誠意励んでおられます。

研磨代金は、刀身の状態により変わりますが、通常では一寸一万円、深錆・新身は一寸一万二千元よりお預かりします。

■連絡先 〒252-1032 神奈川県相模原市南区相武台三十八
一〇四六二五六〇八九五

〈刀匠〉 新保基平さん



新保基平さん(本名基治)は、昭和十六年生まれ、七十一歳。新潟県南津市(現佐渡市)の刃物鍛冶の家に生まれた新保さんは、幼少期に見た刀の美しさに魅了され、小学五年のときから作刀の勉強を始めました。

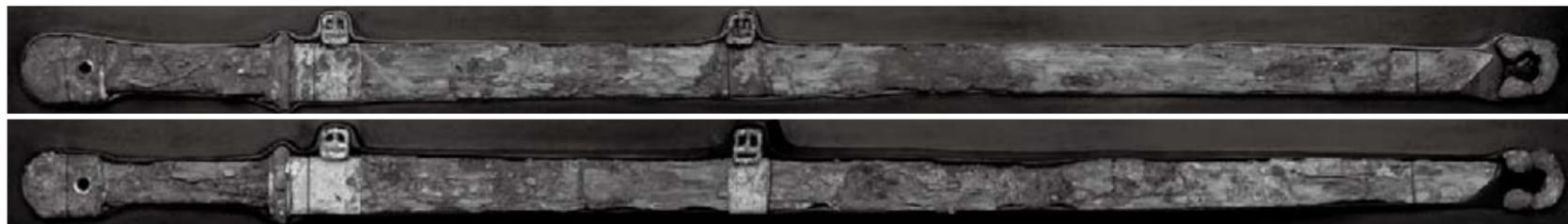
その後も独学で作刀技術の研究し、昭和三十七年、二十一歳で作刀承認を受け、第九回作刀技術発表会に初出品、入選第一席となりました。その作刀を見た佐藤寒山先生の勧めで、人間国宝である宮入平師に入門。同師の元で再修業に励むこともに、刀身彫刻を阿部昭忠師に学びました。

昭和五十一年六月二十九日に初銘の義治から基平へと改銘、その後は優秀賞や奨励賞などを数々受賞、六十三年には名物日本号写しで特賞毎日新聞社賞を受賞されました。

ちなみに、「基平」銘の名付け親は佐藤先生です。多くの現代刀匠から慕われた寒山先生ですが、刀匠銘を付けてもらったのは新保さんのみだそうです。

製作代金は、刀百五十万円から、脇指百万円から、短刀七十万からとなっております。刀身彫刻を望む場合は別途になります。また、篆刻刀の製作も行っていますので、ご相談ください。

■連絡先 〒952-1000 新潟県佐渡市梅津一三五
九二七四三九〇



金銀荘大刀その一(陽宝剣)(上) 金銀荘大刀その二(陰宝剣)(下) いずれも奈良国立博物館提供



「陽剣」象嵌銘 元興寺文化財研究所提供



「陰剣」象嵌銘 元興寺文化財研究所提供

特別寄稿 「陽剣」と「陰剣」

東大寺ミュージアム館長 梶谷 亮治

明治四十年(一九〇七)九月に、東大寺金堂(大仏殿)に安置される盧舎那仏(大仏)の正面(南)から金銀荘大刀その一とその二など、西南から金銀荘大刀その一とその二、銀壺、水晶合子、真珠など、明治四十一年一月には大仏さまの背後(北)から金銀荘大刀その三と銀荘大刀などが出土した。これらは昭和五年(一九三〇)に旧国宝に指定され、昭和三十三年には文化財保護法によって国宝に指定されている(名称は「国宝・東大寺金堂鎮壇具」。その後数度の修理が加えられているが、平成二十二年(一九九〇)から三十二年の間、国庫補助事業で再び本格的な修理が行われた。修理が始まってから間もない平成二十二年(二〇一〇)九月に



「国家珍宝帳」(部分) 「正倉院宝物3北倉Ⅲ」から複写

財団法人元興寺文化財研究所のエクス線調査で、金銀荘大刀その一とその二の刀身から「陽剣」「陰剣」の象嵌銘が発見された。ところで、東大寺大仏建立の本願である聖武天皇は、大仏造頭の大願を果たして数年後、天平勝宝八歳(七五五)五月二日に崩御されたが、光明皇太后はその冥福を祈って同年六月二十一日に、聖武帝ゆかりの宝物を大仏に奉獻された。その宝物のリストである「国家珍宝帳」(正倉院宝物)には、「御大刀壹佰口」の筆頭に「陽宝剣」「陰宝剣」二口が記載されている。一方、正倉院文書の「出蔵帳」によると、天平宝字三年(七五九)十二月二十六日に「陽宝剣」「陰宝剣」は皇太后によって出蔵されている。その際に、「国家珍宝帳」の該当部分に「除物」の付箋が貼り付けられたのだろう。



「出蔵帳」(部分) 第63回「正倉院展目録」から複写

この出蔵した「陽宝剣」と「陰宝剣」の細かい特徴を「国家珍宝帳」は記しているが、そこに記される宝剣の法量「並刃長二尺六寸九分」が、現状の金銀荘大刀その一とその二(「陽剣」「陰剣」)にびたりと一致し、「各銘宝剣字」とある銘文は、まさに各々の大刀に「陽剣」「陰剣」と刻銘象嵌されたそれに一致する。すなわち、国宝・東大寺金堂鎮壇具のうちの金銀荘大刀その一とその二こそが、「国家珍宝帳」の「陽宝剣」「陰宝剣」に当たると確信されるのである。この大ぶりの一対の大刀が、聖武天皇の身近に伝来した由緒ある大刀であることが明らかになったのである。

聖武帝の身近にあって最も尊重されたと思われる宝剣が、実は私たちの目前に存在したその大刀であった、と気づかされたときは本当に歴史の不思議さ、心を打たれたときでもあった。「陽剣」「陰剣」の意味するところは何か、などまだ考究すべきことは多いが、それらはまた歴史が解決することになるかもしれない。 ※「陽剣」「陰剣」は、東大寺ミュージアムの特別展「国宝・東大寺金堂鎮壇具のすべて」(九月二十九日まで)で公開されています。

組合こよみ (平成25年5月~6月)

- 5月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第11号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・嶋田理事・綱取理事・服部理事・冥賀理事・赤荻監事・持田監事・飯田慶雄氏・大平将広氏・生野正氏・新堀賀将氏・藤岡弘之氏・松本義行氏・宮澤琢氏・土子民夫氏
17日 東京美術倶楽部にて第26回通常総会を開催。出席79名、委任状97名、計176名。役員選任投票により新理事17名、監事2名選ばれる。深海信彦氏、理事長に再任
17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加90名、出来高15,753,500円
22日 東京刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第12号・『全刀商』第22号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・綱取理事・服部理事・冥賀理事・赤荻監事・持田監事・飯田氏・大平氏・生野氏・新堀氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
28日 「新作名刀展」表彰式取材のため、生野委員が公益財団法人日本美術刀剣保存協会を訪問
28日 深海理事長が日刀保を訪問、小野裕会長・柴原勤専務理事・志塚徳行常務理事・福本富雄常務理事・後藤安孝事務局長と面談
30日 『刀剣界』取材のため、生野氏・土子氏が前田日明氏をリングス事務所に訪問
6月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第12号・『全刀商』第22号・『やさしい刀』編集委員会を開催(企画・校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大平氏・新堀氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加63名、出来高11,888,000円
17日 東京美術倶楽部にて第2回理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・高橋理事・綱取理事・持田理事・吉井理事
17日 東京美術倶楽部にて『全刀商』第22号・『やさしい刀』編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西芳生氏・大平氏・新堀氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
21日 深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事が警察庁を訪問し、総会の終了を報告
22日 東京刀剣倶楽部会場で『やさしい刀』『全刀商』第22号編集委員会を開催(企画・校正)。深海理事長・冥賀副理事長・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏

私が出会った珍品・逸品 (大小柄)

三鈷柄付剣図小柄 紋 無銘 伝乗真 棹 無銘 程乗 赤銅磨地・赤銅据紋・額金色絵 長102mm



今から十〜二十年ほど前になりますか、当時、われわれ全国刀剣商業協同組合の若手は、刀装具研究の第一人者である福士繁雄先生を囲んで年に数回、会合を開いていました。
と言っても、決して堅苦しいものでなく、福士先生がテーマ別に持ってきてくださったコレクションの解説をしてくれたり、組合員がそれぞれ刀装具を持ち寄り、批評し合い、最後に福士先生が極めてくれたりという自虐な会でした。私にとっては、出席することで、刀装具を拝見するのが何となく楽しくなるような会でした。
そんな中で、この小柄と出会いました。一見した途端、これはぜひ手に入れて「福士会」に持っていこうと思いました。
私が見たところでは、据紋の三鈷柄は後藤の古いもののように見えるのだが、棹が何だか違う気もするし、いかげなものかと思いつつも何とか手に入れ、福士会に持参したところ、据紋は三代乗真、棹は九代程乗と極められ、保存刀装具審査でも、「紋無銘伝乗真、棹無銘程乗」となりました。
私の刀装具の原点でもあり、今も大切に持っています。(持田具宏)

ブック・レビュー BOOK REVIEW

白洲信哉編集長で新装発行

月刊『目の眼』

本体一〇〇〇円(税別) 株式会社目の眼発行

焼物を中心に時絵、彫金、古裂など、幅広い分野の古美術品を扱い、また、刀剣関連においても連載や特集記事などで人気のあった古美術雑誌、月刊『目の眼』が里文出版から独立し、新たな誌面構成でスタートしました。

わが国の伝統と文化を美術品として完成させた古き時代の人々の、物に対する想いを、現代人の感性に重ね合わせ、さらに新たな楽しみ方を探るべく、白洲信哉氏が舵取りを

金属の視点から歴史を見直す

『金属が語る日本史—錢貨・日本刀・鉄炮』

齋藤努著 本体一七〇〇円+税 吉川弘文館

歴史や考古学、美術史学を大きく見て人文科学。遺跡からの出土品に科学的な調査(X線や成分分析)をする



金属が語る日本史 齋藤努

開始したものです。白洲氏は、古美術に造詣が深く、わが国の文化にも通じた白洲次郎・正子夫妻と、評論を芸術にまで高めた小林秀雄氏の孫で、両者の感性を受け継いで多くの著作があります。

新装月刊『目の眼』の柱となっているのは、編集長自らが古美術の根源にあるものを求めて各地を訪ね、その民俗性や自然神との関わりから地域の美の性格をつかもうと試みる企画です。第一回目は、鑿の痕跡を強く残す木彫りの仏像で知られる円空の足跡を追って



『はなてばてにみで』

の記述の裏付けともなっていくわけです。本書では、日本刀の製作も自然科学的に調査しています。宮城県在住の九代目法華三郎信房刀匠と

ズなどの合金(青銅)であるが、鉛を原子レベルで調べると現代では産地を特定でき、例えば奈良の大仏の原料は山口県にある長登銅山産であることが知られています。奈良の大仏に銅を送ったので、奈良登りがなまって長登になったと、地名伝説を裏付けることもできます。

何と素晴らしいことでしょうか。文化財科学は『日本書紀』や中国の史書

その他の刀剣関係では、田野辺道宏氏(刀剣研究者・前刀剣博物館館長)の『日本刀五カ伝の旅』が、人気企画として旧『目の眼』から不定期連載されています。

ただ単に古い物を集めるという行為も楽しみ方の一つでしょうが、古き佳きものに接することにより、器物が造り出され、生きてきた時間そのものを掌の中で感じとり、製作者の創造意識と通じ合う。つい忘れてしまいがちな、古美術品を愛しむということの本質を再認識させてくれる内容となっています。(書財)

「斬れ味」にこだわった刀工のすべて

『名刀虎徹』

小笠原信夫著 定価八〇九円(税込み) 文春新書

小笠原信夫先生は東京国立博物館工芸課長を務められ、現在は同館名誉館員であり、日本刀に関する数多くの著書が出版されています。

例えは、『長曾祿虎徹新考』『日本刀の鑑賞基礎知識』『日本刀の歴史と鑑賞』『日本刀—日本の技と美と魂』などの著作があります。本書は、刀の好きな方だけでなく、あまり知識がない方でも一度は聞いたことがあるに違いない「虎徹」のサクセスストーリーです。

センター試験に出題された難問は「鐔」

『真贋』

小林秀雄著 本体二〇〇〇円+税 世界文化社

今年の大学入試センター試験の国語の平均点が過去最低を記録したという。つまり、異例に難しかったということだ。各予備校の指摘では、出題文が受験生の不慣れな小林秀雄と牧野信一だったから

だそうだが、牧野はともかく、小林は、筆者のころは試験に頻出するからと、ずいぶん読まされた記憶がある。もう一つ、われわれ業界人が驚



真贋 小林秀雄

かされたことがある。「鐔」が出題されたのである。予備校の東進では、問題を次のように分析している。

「今年度の第一問は、小林秀雄(一九〇二—一九八三)の『鐔』が出典であり、例年のような硬質の評論文ではなく、随筆的評論であった。注も多く、心情や文学的表現を問う問題も出題されるなど、受験生は戸惑ったと予想される。」

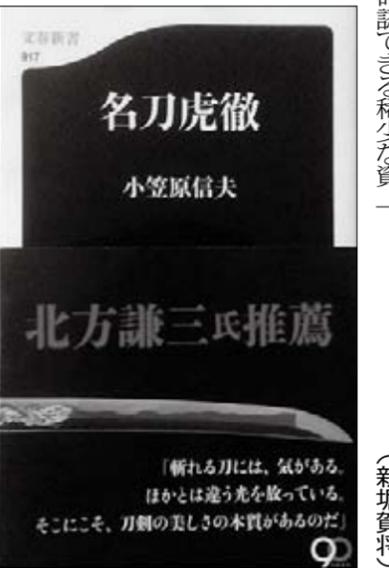
(大学入試センターのホームページで見ることが出来る)。「鐔」は六ページばかりの短文であるから訳なく読めるが、収録されている『真贋』は現在、古書でしか入手できない。図書館で閲覧することを強くお勧めする。本書には「古鐔」と題する随筆もある。当時の一流の文化人が鐔や刀にどのような印象を持っていたか、読み解くことができる。本書には自身のコレクター心理を述べた表題のほか、陶器、絵画、芸能、古典文学などさまざまなテーマの随筆風評論が集められていて、常の小林とは異なる風貌にも触れることができる。

では、あらためて虎徹の魅力と何でしょうか。本書の説くそれは、当時の情勢に反したものでした。太平の世にあり、作刀界も正宗のような「美」をもてはやす風潮の中、あくまで「斬れ味」という日本刀本来の作風に沿ったものでした。

それが日本刀の価値だとこだわりの持つ近藤勇や勝海舟、犬養木堂らに虎徹は愛され続けました。本書には数多くの写真や押形が掲載されており、虎徹の銘字や茎の形の変遷、刃文など、虎徹に関するすべてがわかる一冊です。

その中に特に珍しい資料があります。刀鍛冶や甲冑師としての仕事を交えた際の通常、銘を交えるのが一般的です。その中でも虎徹は特によく銘を変えています。虎徹が刀鍛冶になった際の最初期の刀と脇指があります。これは、虎徹にとって唯一の甲冑師のころと同じ銘であり、虎徹が甲冑師から刀鍛冶に転じたときの文書と実際の品物でも確認できる稀少な資料です。

この一冊には、江戸時代を生きた虎徹の一生に関して、作品はもとより、『徳川実紀』をはじめ江戸時代の史料から昭



名刀虎徹 小笠原信夫

NEWS & TOPICS

佐野美術館がリニューアルオープン

静岡県三島市の佐野美術館がリニューアルし、四月十八日、開館記念式典が執り行われた。当館は昭和四十一年に開館。四十七年の歴史の中で幾度かの改修工事を行ってきたが、本館二階にあった収蔵庫が手狭になってきたことから、美術館創立四十五周年を機に記念事業として収蔵庫棟を増設。それに合わせ、本館の内装および設備を更新する工事を昨年五月から始め、この度リニューアルの運びとなった。



多くの出席者で賑わうリニューアルオープン祝賀会

本館は外装・内装とも白色を基調としたデザインに変更。館内を明るく開放的な空間にするため、至る所に工夫が重ねられている。老朽化した設備面の更新、ミュージアムショップの改修、コミュニケーションスペースの設置、映像コーナーの新設、全館LED照明への変更、そして常設展示室の新設である。特にこのLED照明と常設展示室には、目を見張るものがある。LED照明は、パナソニック製の最新設備を導入した。特に調光と調色には気をつけていて、三〇〇〇K(ケルビン、色温度の単位)と四〇〇〇Kの二本のLED管を使い、展示作品に合わせてその色温度・照度を調整できる機能を持つ。

「常設展示室は元収蔵庫のスペースを利用して新設された。重要文化財の大日如来坐像や重要美術品の蔵王権現立像など木彫を展示するために、調湿機能のある漆喰、珪藻土の壁を利用。さらには来場者のかねてからの要望により、日本刀をはじめとする収蔵品の常設スペースを設けた。こちらには、エアータイトを利用した特殊な展示ケースを導入した。これは展示スペース内に外部の空気が一切入らないため、湿度の調整が独立してできる構造で、全長約五メートルである。本年度は、ここに所蔵する日本刀のうち五五つが三カ月ごとに変更して展示される予定。七月六日から十月六日までは、平安時代から室町時代までの生ぶさの備前刀が展示される。



美術関係のグッズが楽しいミュージアムショップ

記念式典は二部構成で、第一部は美術館のお披露目と、リニューアルオープン第一弾展覧会「画業六十五年記念 赤堀尚一 赤の軌跡」全八十点の内覧会。第二部は会場をみしまプラザホテルへ移し、祝賀会が行われた。官公庁関係者、工事関係者、美術館・博物館関係者、展覧会関係者、建設資金寄付者ら約百三十名が参列した。渡邊妙子館長にお話を伺った。

「建物壊して建て直すことは簡単だが、創立者佐野隆一への思いのこもるこの建物を残しつつ、内装は現代のニーズに合わせたデザインに変え、新旧をうまくマッチさせる。建物は雨風を防ぐだけではなく、入った者の精神をすべて支配する。また

「新設した常設展示室は絨毯張りでしたが、既存の企画展示室のフローリングを変更しなかったのはそのためですか。」「あのフローリングは、当時最高のもの。汚れを取るために五ミリ削って綺麗な漆を出した。壁もまたの白い壁ではなく、漆喰や珪藻土といった自然素材を一部取り入れている。これらは例えば室内空気環境への配慮とともに、人の気持ちをも和ませる効果も考えている。和めないと美術鑑賞はできない。そこに抵抗感があったらならない。創立者の思いを受け継ぎ、装いを新たにしたい佐野美術館へ、皆さんも行ってください。」

(大平将広)

NEWS & TOPICS

刀文協の「新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会」授賞式開かれる

六月八日、ホテルオークラにおいて、公益財団法人日本刀文化振興協会(刀文協)主催、経済産業省・文化庁後援の第四回「新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会」授賞式が開催された。本阿彌光州理事長の挨拶で始まり、鹿野道彦元農林水産大臣、多田俊樹経済産業省商務情報政策局日用品室・伝統的工芸品産業室長、大崎啓夫公益財団法人大倉文化財団理事長より祝辞があった。

- 仁史、協会会長賞▽久保善博、金賞▽明珍裕介、金賞▽根津啓、金賞▽新入賞▽上山陽三
- 【研磨】協会会長賞▽森井鐵太郎、金賞▽小野敬博、金賞▽藤川二郎、金賞▽A・J・イクリンガル、同▽玉置城二、金賞▽本阿彌毅
- 【塗鞘】協会会長賞▽岸野輝仁
- 【刀装具】金賞▽F・ハラム、金賞▽川上登
- 【白銀】金賞▽中田晃司
- 【白鞘】金賞▽森隆浩、金賞▽森井敦史
- 【作刀功労賞】杉山俊雄

授賞式の後、懇親会が開かれ、駆けつけた渡邊妙子佐野美術館館長をはじめ参加者たちは和気あいあいと、しばし刀剣談議に花を咲かせた。盛会のうちにお開きとなり、多くの方が展示会場である大倉集古館へと足を運んだ。同展は、七月二十八日(日)まで開催。期間中、講演会や実演公開が予定されている。(伊波賢一)

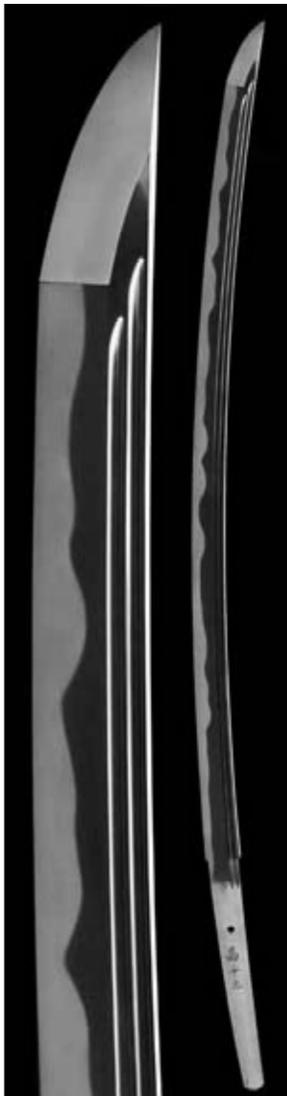


挨拶する本阿彌理事長

続いて宮入恵運営委員長(刀文協専務理事)から、前年より若干増えた応募作品数と審査経緯の報告があり、各賞が発表され、壇上で賞状が授与された。(紙面の都合で金賞以上、数字は席次、敬称略)

【作刀】経済産業大臣賞▽川崎三回目の受賞となった川崎刀匠より謝辞が述べられた。

その後、最高賞である経済産業大臣賞を開催四回中三回目受賞となった川崎刀匠より謝辞が述べられた。



経済産業大臣賞 晶平之 刃長75・3cm

お知らせとお願い

本紙購読について

「刀剣界」は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に一年間無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で継続購読を希望される方は、お名前・送付先住所・電話・メールアドレス(あれば)を左記まで書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。

情報を募集しています

本紙は組合の機関紙であるとともに、紙名のように刀剣界を網羅し、斯界に役立つ情報紙であることを目指しています。ついでに、広く情報をお寄せくださるようお願いいたします。イベント・レポート、催事情報をはじめ、ご覧になった新聞や雑誌記事、TV番組の感想、エピソードなど何でも結構です。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。

ただし、紙面の関係で編集させていただきますことがありますが、ご了承ください。

広告募集中心です

広告も読者にとっては有益な情報の一つです。本紙では記事とともに順次、広告欄の充実も期してまいります。料金は、年間六回で三万円です。ただし、編集委員会の審査によりご希望に沿えない場合もあります。詳しくお知りになりたい際は組合に直接お問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先

全国刀剣商業協同組合(全刀商)
〒169-0072 東京都新宿区大久保
二一八一〇 新宿スカイプラザ二二〇二
TEL 03(320205)0601
FAX 03(320205)0089

NEWS & TOPICS

日刀保の「新作名刀展」表彰式開かれる

平成二十五年度の新作名刀展表彰式が、五月二十八日、主催する公益財団法人日本美術刀剣保存協会(日刀保)の講堂において執り行われました。



新作名刀展の授賞式会場

川邦彦刀匠(無鑑査)に対して生前の業績をたたえ、ご遺族に表彰状が贈呈されました。今年の総出品数は六十二点。内訳は、無鑑査が十四点、無鑑査を除いて刀の部が二十六点、刀身彫が四点、彫金の部十八点

でした。審査の結果、入賞者二十四名で、受賞者は次の通り。特賞は三名で、刀の部の日本美術刀剣保存協会会長賞に松葉一路氏、彫金の部の同会長賞は山下秀文氏・羽川安穂氏が受賞。賞状とカップと賞金、作刀の部受賞者には玉鋼二十キログラムが授与されました。優秀賞は十名で、作刀の部で、加藤政也氏(太刀・刀の部)と小脇指・短刀の部

で二部門受賞)・曾根寛氏・北川哲士氏・高見一良氏・新保基治氏、刀身彫の部では片山恒氏、彫金の部では宇津木光良氏・川島義之氏・福與裕毅氏が、それぞれ受賞。賞状のほかは賞金、作刀の部受賞者には玉鋼十キログラムが授与されました。

刀身彫刻では、当日欠席の柳村仙寿審査員に代わって飯田俊久審査員が講評を代読しました。玉追い龍の爪、龍の肉取りの良しあし、磨きについての注意点、何を彫ることができるのか、などが報告されました。

努力賞には、作刀の部六名、刀身彫の部三名、彫金の部二名の方々が受賞。代表して作刀の部から森國利文氏が呼名されて登壇し、賞状のほかは賞金、作刀の部受賞者には玉鋼十キログラムが授与されました。この後、審査員から、受賞者一人一人に対し、作品の評価ポイント、良かった点、悪かった点、今後の注意していかなくてはならないところなどの講評が述べられました。

なお、新作名刀展は刀剣博物館での展示の後、六月二十九日(土)から七月十八日(木)まで山形県小大中小大というリズムについて、また孝の仕上げの大切さ、理想とする目釘穴の大きさと位置に至るまで述べられました。

彫金では、橋本晴夫審査員から、鐔も刀と同じで、全体の形・肉置き・切羽台・櫃穴と下地のデザイン、姿がまず大切であること、錆味は浅いと駄目である、布目象眼は、古作を見ると布目が浅く目立たないものだ、透し鐔はストーンと彫り上げるのではなく、透かしの内側に自然な肉置きがあることによって立体感が出てくるものである、などの解説がありました。

恒例の「大刀剣市」は今年、十月二十五日(金)〜二十七日(日)に開催するのに対して、日刀保の全国大会は二十六〜二十七日の開催となっている。

NEWS & TOPICS

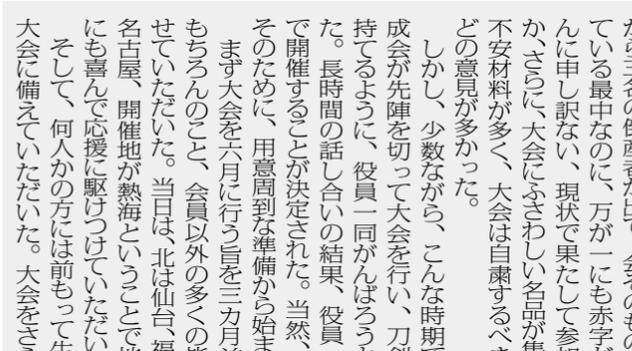
土肥富康君と高島洋子さんが結婚

去る六月二日、新潟県長岡市のホテルニューオータニ長岡において、当組合副理事長土肥豊久氏のご子息富康氏と高島洋子さんの結婚披露宴が執り行われました。

お二人の門出を祝おうと全国各地より多くの人が集まり、披露宴は大いに盛り上がりしました。初めに、大阪刀剣会の吉井唯夫氏が心温まる祝辞を主賓の挨拶として述べられました。富康

氏と修業先の主人である吉井氏の素晴らしい絆を感じさせるスピーチで、会場は感動に包まれました。その後、当組合理事長深海信彦氏による乾杯の発声で、お祝いムードは一気にピークに達しました。各界代表の祝辞や余興、和やかな懇談を経ていよいよ終盤に差しかり、新婦洋子さんが両親への感謝の手紙を読み始めると、会場には再び感動の時が訪れま

した。また、そこで改めて第一子の発表まであり、幸せいっぱいのお二人への祝福はいつまでも続くのでした。富康君、洋子さん、末永くお幸せに。(宮澤 琢)



喜びに包まれる富康君・洋子さんと両家のご両親

NEWS & TOPICS

日刀保代表と深海理事長が懇談

当組合の深海信彦理事長は五月二十八日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会を訪問、今期



右正面から左回りに小野会長・柴原専務理事・志塚常務理事・福本常務理事・後藤事務局長・深海理事長

組合理事長への就任を報告するとともに、日刀保・当組合に共通する諸課題についての意見交換を行った。対応して下さったのは、小野裕会長・柴原専務理事・志塚常務理事・福本富雄常務理事・後藤安孝事務局長の五方。

恒例の「大刀剣市」は今年、十月二十五日(金)〜二十七日(日)に開催するのに対して、日刀保の全国大会は二十六〜二十七日の開催となっている。今後とも懇談の機会を設け、日刀保と当組合の問題解決に資していくことが期待される。(生野 正)

「平成会大会」熱海で開催

紫陽花の咲き誇る六月十日、熱海石亭において平成会の大会が開催された。参加者も六十名を超え、出来高も最近の通常交換会の十倍以上、すなわち一年分近い商いができ、ほっとしたのが実感である。まずもお礼申し上げたい。大会を開催するに当たり、三月初旬に役員会を行ったところ、賛否両論が激突した。昨年は平成会の会員のうちから三名の倒産者が出て、会費のものが大きな痛手を被っている最中なのに、万が一にも赤字が出たら会員の皆さんに申し訳ない、現状で果たして参加者が集まるだろうか、さらに、大会にふさわしい名品が集まるだろうか、等々不安材料が多く、大会は自粛するべきではなかつたのかなど意見が多かった。しかし、少数ながら、こんな時期であるからこそ、平成会が先陣を切って大会を行い、刀剣界が明るく希望の持てるように、役員一同がんばろうという意見が出された。長時間の話し合いの結果、役員一同背水の陣の覚悟で開催することが決定された。当然、失敗は許されない。そのために、用意周到な準備から始まった。まず大会を六月に行う旨を三カ月前から伝え、会員はもちろんのこと、会員以外の多くの皆さんに声をかけさせていた。当日は北は仙台、福島、南は大阪、岐阜、名古屋、開催地が熱海ということで地元静岡の皆さんにも喜んで応援に駆けつけていただいた。そして、何人かの方には前もって生ぶ品の依頼を行い、大会に備えていただいた。大会をさらに盛り上げるため

刀 剣 界

平成25年7月15日発行(隔月刊)

徳川美術館

〒461-0023 愛知県名古屋市東区徳川町1017 ☎052-935-6262

備前刀の系譜

現在の岡山県に当たる備前国は刀剣の産地として知られ、山城・相模と並ぶ三大産地の一つに数えられました。刀剣に必要な材料を産出し、水上交通を利用した流通が発達したことが、備前国が産地として発展した理由です。刀剣の生産は鎌倉時代

に隆盛を迎え、需要の高まった南北朝時代以降、大規模に行われました。本展では、備前刀を代表する一文字派や長船派を中心とする刀工たちの作品など約80点を紹介し、備前刀の系譜をたどります。

会 期：6月1日(土)～7月21日(日)

「備前刀の系譜」 出展作品		
I 古備前備前刀の始まり		
太刀	銘	正恒
○刀	無銘	正恒
太刀	銘	正恒
太刀	銘	正恒
太刀	銘	包平
太刀	無銘	吉包
太刀	銘	貞真
II 一文字派備前刀の隆盛		
太刀	銘	則宗作
○刀	無銘	一文字(名物南泉一文字)
○太刀	無銘	一文字
太刀	銘	一
刀	銘	一
太刀	銘	吉平
太刀	銘	吉房
刀	金象嵌銘	吉房
刀	銘	宗吉作
○太刀	(菊紋)	菊一文字
○小太刀	銘	吉用
○太刀	銘	備前国長船住守家(名物兵庫守家)
太刀	銘	正応三年□二月廿日
刀	無銘	吉岡一文字
脇指	額銘	一(片山一文字)
刀	無銘	真守
刀	無銘	家助
助真と国宗一鎌倉に移住した備前鍛冶一		
○刀	無銘	助真
★太刀	銘	国宗
○太刀	銘	国宗
III 長船派 備前刀の大規模生産		
光忠・長光親子		
太刀	銘	光忠
○太刀	銘	光忠
太刀	銘	光忠 守家造
太刀	銘	長光(名物津田遠江長光)
太刀	銘	長光
○太刀	銘	備前国長船長光造

光忠・長光の後継者たち		
短刀	銘	備州長船住景光 嘉暦三年三月日
○太刀	銘	備州長船住兼光
刀	無銘	兼光
○刀	銘	本作長義(以下58字略)
刀	銘	備州長船住元重
脇指	銘	備州長船成家 永和二年十二月
刀	無銘	倫光
小太刀	銘	備州長船自光 明德二二年十月日
応永備前 室町期の長船派		
刀	銘	盛光
太刀	銘	備州長船実光 応永十五年十月日
太刀	銘	備州長船康光室町15
刀	銘	備前国住長船左京進宗光作 永正十年八月日
脇指	銘	備州長船則光 明応六年八月日
短刀	銘	備州長船法光 文亀元年八月日
末備前 長船派の終焉		
脇指	銘	備前国住長船與三左衛門尉清光 永祿三年二月吉日
短刀	銘	備前国住長船春光作 天文二十年十一月日
脇指	銘	備州長船忠光 文明三年八月日
刀	銘	備前国住長船彦左衛門尉祐定 永正二年八月日
刀	銘	備前国住長船祐定作 天正元年十月日
IV 雲派の刀工たち		
脇指	無銘	雲生
長刀	銘	雲次
○太刀	銘	備前国住雲次
刀	無銘	雲重
太刀	銘	利長

※★は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を示す。

国立歴史民俗博物館

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 ☎043-486-0123

時代を作った技—中世の生産革命—

中世は技術が大きく飛躍した時代でした。貴族など上位階層の人たちが儀式などの特別な場で使うものを作る古代の技術から大きく転換し、一般庶民が日常生活で使うための道具が大量に作られます。陶器・漆器・鉄器などが一般消費者へ浸透することで、中世の生活変化をもたらしました。考古学の成果から見えてきた中世社会は、生産・流通システムに裏付けられた物質的に豊かな消費社会だったのです。この社会を支えた生産技術は、いかに効率よく大量にモノを作るか、という方向性に表れました。

一方、日本の工芸技術は海外でも大きく評価され、銅鏡や漆器などのメイド・イン・ジャパンはブランド品として輸出されました。また、東アジアや南蛮貿易によってもたらされた印刷や鉄炮、ガラス生産などの海外の技術は、従来からある日本の技術体系の中で消化され、さらに高性能な鉄炮など、より高度な技術の製品が開発されるようになっていきました。

このような、時代のエネルギーの結晶は最先端技術の到達点として実を結び、モニュメントとしての伏見城、大坂城などの城郭や、ヨーロッパでjapan(漆器)としてもてはやされた「南蛮漆器」などの精緻な美術工芸品が次々と生み出されていったのです。

この企画展示では「中世のモノ作り」、すなわちこうした中世の技術とそれを支えた職人たちの実像に迫

ります。近年の発掘調査の成果により、個々の道具や工房だけでなく、京都や鎌倉などの都市や流通拠点での生産状況、中世のコンビナートと呼ばれていた茨城県東海村の村松白根遺跡のような職人の村など、生産の場も判明してきています。最新の成果を盛り込みながら、文献史学・考古学・民俗学・美術史学・分析化学などの多視点からの検討を重ね、新しい中世の技術史像を描きます。

なお、本展の「最先端をいく技術」のコーナーには、刀・刀装具・鏡・鉄炮などが展示されます。

会 期：7月2日(火)～9月1日(日)



特別展「八重の桜」
会津魂を胸に秘めたハンサム・ウーマンの一生
三月十二日から五月六日まで
江戸東京博物館にて特別展「八重の桜」が開催されました。

八重は、会津藩の砲術師範であった山本権八・佐久の子として生まれました。慶応四年(一八六八)の戊辰戦争時には、鶴ヶ城に籠城し、自らも銃を取って男性とともに奮戦しました。

会津藩の敗戦後、八重は兄の山本覚馬を頼って京都に移り、半年後、京都最初の女学校「女紅場」の教師となります。その果敢に行動していく。本展はNHK大河ドラマ「八重の桜」と連動し、同時代の資料や新島八重ゆかりの品々を紹介し、戊辰戦争の敗戦から立ち上がる人々の姿を通して、震災復興へのメッセージを伝える展覧会でした。

本展は七部で構成されており、八重の駆け抜けた人生が時系列で展開されています。見る者も物語の中を進んでいくような感覚で、非常にわかりやすく、また楽しく観覧できる内容となっています。

なお、特別展「八重の桜」は巡回展として、京都府京都文化博物館にて七月十三日(土)～九月一日(日)に開催されます。

国宝 大神社展
指定品のオンパレードに圧倒される
東京国立博物館で開催された「大神社展」(四月九日～六月二日)に、複数回行ってきました。構成は、第一章「古神宝」、第二章「祀りのはじまり」、第三章「神社の風景」、第四章「祭りのにぎわい」、第五章「伝世の名品」、第六章「神々の姿」となっています。展示品のほとんどが国宝・重要文化財ですが、第一章の古神宝には黒漆平文飾剣・沃懸地酢漿文兵庫鎖太刀

者に起因しているものと推定される。第五章の伝世の名品のうち、七支刀は初めて拝見した。七尺を超える直刀と黒漆平文太刀、菱作打刀拵、三尺を超える太刀、相州綱広、相州綱家、備州兼重作と、太刀もいろいろあるが、やはり白糸威鏡、白糸妻取鏡であろう。鎌倉・南北朝の鏡は、やはり違つと思わされる。第六章の神々の姿には、それぞれの神社でご本尊として拝まれている坐像・立像を四十数体展示していた。小生としては、何とも落ち着かないというか、一寸不遜な感じさえする展覧会でした。

なお、「国宝 大神社展」は平成二十六年一月十五日(水)～三月九日(日)・九州国立博物館にて開催されます。

古銭・切手・刀剣 売買 評価 鑑定
株城南堂古美術店
 代表
田中勝憲
 〒153-0005
 東京都目黒区上目黒四-1-110
 TEL 03-3777-0177
 03-3777-0177
 03-3777-0177
 FAX 03-3777-0177

催事情報

■林原美術館

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-7-15 ☎086-223-1733

■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767

■瀬戸内市立美術館

〒701-4392 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4911 (瀬戸内市役所牛窓庁舎3・4階) ☎0869-34-3130

二次元VS日本刀展

歴史の中を生き続け、美を伝える「日本刀」、そして伝統の技を受け継ぎ未来へとつなぐ「刀匠」と新文化を創造する「クリエイター」。日本文化を代表する作品対決による、新しい物語を創造していきます。

日本刀の聖地とも言える岡山県を中心に、林原美術館・備前長船刀剣博物館・瀬戸内市立美術館の3館が集い、過去・現在・未来の日本刀をテーマに、国内外へと日本刀文化の魅力を発信していきます。

昨年の「エヴァンゲリオンと日本刀展」では、刀匠をはじめ、日本刀の匠たちが新しいデザインの下「ものづくり」に挑戦していく試みでした。今回の特別展は、若者に影響力のあるさまざまなクリエイターたちに、日本刀についてさらに学んでい

ただき、より大切に日本刀を表現していただくことで、若者へ日本刀文化を広めていただくという初めての試みです。

そのために、刀匠の新作や古刀の名品などの刀剣を基に新しい作品を作り上げていただきます。そしてモチーフとなった作品とともに展示することによって、日本刀に興味を持っていただく「きっかけ」となることを企図しています。

新作だけでなく、日本の技術力を牽引してきた古の名工たちの作品も同時に展示し、未来へとつながる日本刀の新世界をご覧いただきたいと考えています。海外でも人気の日本の漫画家やイラストレーターたちとコラボレーションすることで、中高大生ら若者をターゲットに、日本刀文化の浸透を目指します。

林原美術館では「温故十番勝負」と題して、国宝や重要文化財の刀剣などをモチーフにした新たなグラフィック作品を紹介。「平家物語絵巻」や「洛中洛外図屏風」、能面などとのコラボレート作品も展示します。

備前長船刀剣博物館の「現代十番勝負」では、アーティストが日本刀をモチーフに新しい作品を制作。作品に登場するオリジナルの日本刀を刀匠が打ち上げています。

瀬戸内市立美術館では「未来十番勝負」と題し、100年後の日本刀をテーマにした作品を展示します。

開催期間は、林原美術館と備前長船刀剣博物館が7月13日(土)から9月16日(月・祝)まで、瀬戸内市立美術館が7月26日(金)から9月1日(日)までです。



■大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728

特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」

大阪歴史博物館では7月3日(水)から9月16日(月・祝)まで、特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」を開催します。この展覧会は、一般社団法人全日本刀匠会事業部と劇場版アニメ「エヴァンゲリオン新劇場版」とのコラボレーション企画です。

エヴァンゲリオンは、平成7年にテレビ放映されて社会現象を起こし、その後も劇場版として映画化され、24年には最新作「エヴァンゲリオン新劇場版：Q」も公開されて、多くのファンに支持されています。

本展では、新進気鋭の現代刀匠たちが「エヴァンゲリオン新劇場版」の世界からインスピレーションを受けて挑んだ新作刀を展示します。エヴァンゲリオンの基本装備の一つで、接近戦において使徒への直接攻撃を可能にした「プログレッシブナイフ剣型」、エヴァンゲリオン初号機頭部の厚い装甲をヒントにした「エヴァンゲリオン初号機型兜」、ダマスカス鋼による「ロンギヌスの槍」など、エヴァンゲリオンのさまざまな場面に思いをよせながら、日本刀の新たな世界をお楽しみください。

武器としてだけではなく、美術的・精神的な存在としても人々に大切にされてきた日本刀。この展覧会によって、21世紀を生きる私たちが未来に残す伝統の形を再確認いただければと思います。

大阪歴史博物館のご厚意で、「エヴァンゲリオンと日本刀展」の招待チケット10組20名分を本紙読者にプレゼントします。先着順としますので、お急ぎください。申し込みは組合事務所までFAXで。



■公益財団法人日本美術刀剣保存協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-25-10 ☎03-3379-1386

協会設立65周年・たたら操業35周年記念「第44回全国大会」

期 日：10月26日(土)～27日(日)

日 程：

26日…刀剣鑑賞・一本入札・祝賀式典・懇親会

27日…刀剣鑑賞・刀剣博物館特別展見学・協力団体代表会議

会 場：京王プラザホテル 新宿区西新宿2-2-1

☎03-3344-0111

会 費：29,000円(鑑賞会費・親睦会費など。宿泊費含まず) 同伴者19,000円

記念品：刀剣鑑定手帳・玉鋼の置物・出品目録

申込締切：9月24日(火)

第8回国際金属学会 (BUMA VIII) 大会のご案内

The Eighth International Conference on the Beginnings of the Use of Metals and Alloys
10-15 September 2013
Nara Prefectural Cultural Hall
Nara, Japan

The international conference on "the Beginnings of the Use of Metals and Alloys" (BUMA) is the interdisciplinary gathering of scientists, engineers, archaeologists and historians with a focus on production and use of metals, and an emphasis on cultural interactions and evolutions over time and space especially between the West and the Asian region.

Scope of the Conference 会議の領域

The main theme at the Nara Conference is "Cultural Interaction and the Use of Metals". The Conference will provide a forum for discussion on the effects of metals on the culture and history with a special focus on Asian materials. Comparative studies and case studies on ancient and traditional metallurgy from other regions can illuminate the interactions between the Far East and the West through South Asia as well as Eurasia.

Registration 参加要項

The registration fee will cover light refreshments on all days, reception and abstract and CD of full papers with color pages. The selected papers will be published in ISIJ International (monochrome). We encourage active participation by students at this conference. Registration as a student is possible only with a certificate from the concerned university. Registration for an accompanying person is complimentary. Registration and payment: JPN yen 25,000
Accompany person: JPN yen 5,000
Including Exhibitions of Buddha statues and Gagaku (Japanese traditional music)
Registration fee can be paid through credit card or bank transfer. You can register online at the BUMA2013 website from 25 December 2012 via following website:
<http://www.buma8-reg.com/>

Conference Organizations 問い合わせ先

Iron and Steel Institute of Japan
Niikura Building (2F)
2 Kanda-Tsukasacho 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0048 JAPAN
Phone: + 81-3-5209-7011 Fax: + 81-3-3257-1110
<http://www.isij.or.jp/>

平成25年(2013)盛夏 暑中お見舞い申し上げます

毎月20日開催

西日本甲冑交換会
出品随時受付中
事務局 〒151-0053
東京都渋谷区代々木4-22-11
TEL 03-5350-8513
FAX 03-5350-8513
日本刀簾谷 篠谷 大輔

飯田 高遠堂
飯田 慶久・慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312

刀剣古銭・切手・売買・評価鑑定
(株)城南堂古美術店
代表 田中勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL/FAX 03-3771-6776

飯塚 賢路
〒337-0015
さいたま市見沼区蓮沼1004-1
TEL 048-688-2200
FAX 048-688-2200

笹原 俊和
〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮宮地4527-1
TEL 090-3078-4044

(株)日本刀剣
伊波 賢一
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-11
TEL 03-3434-4432
FAX 03-3434-4432

やしま
齋藤 雅稔
東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-1795

やしま
齋藤 隆久
東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-1795

刀剣小道具・甲冑・売買・工作及び相談承ります。
株式会社 むさし屋
代表取締役 猿田 慎男
〒590-0025
大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19
TEL 072-257-2885
FAX 072-257-2885
URL http://www.musashiya.co.jp

株式会社 真玄堂
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-1784
FAX 03-3252-1141

刀 永和堂
朝倉 忠史
長野市南町1-136
TEL 026-228-0001
FAX 026-227-5789

京都店開店
玉山名史刀・一文字刀剣会
玉山 祐司・真敏
京都市東山区三条通白川橋東入
二丁目西町149-1
TEL 075-708-8210

刀剣市場 野田会 毎月3日・19日開催
株式会社 美術刀剣松本
松本 富夫・松本 義行
〒104-0061
千葉県野田市清水1-9-11
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1150
Eメール info@token-matsumoto.jp
URL http://www.token-matsumoto.jp

拵合せ致します
日本刀鞘師 水野 美行
〒160-0002
東京都新宿区坂町18
TEL 03-3353-8810

奈良県無形文化財保持者
月山 貞利
〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-18
TEL 0744-43-7330

株式会社 刀剣柴田
柴田 光隆
〒104-0061
東京都中央区銀座5-6-8
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL http://www.tokenshiba.co.jp

もちだ美術
持田 具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4-447
TEL 048-855-4792

丸英美術刀剣店
瀬下 明・昌彦
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-1784
FAX 03-3252-1141

刀剣ギヤラリー 樹林
森野 幸男
〒803-0812
北九州市小倉北区室町2-2-15
TEL 093-561-0449

美術刀剣 勝武堂
大平 岳子・将広
東京都中野区本町4-45-10
TEL/FAX 03-3381-3071
URL http://www.shoubudou.co.jp

服部美術店
〒100-0001
東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170

株式会社 古美術刀友会
代表取締役 山本 一郎
〒033-0123
青森県三沢市堀口17-332
プレインマンションキア内
TEL 090-3361-9555
URL http://www.10cane.jp/~simbori

古美術・刀剣 山城屋
嶋田 伸夫
東京都豊島区巣鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701
FAX 03-6657-4221

赤荻刀剣店
赤荻 稔
茨城県下妻市下妻乙1-72の5
TEL 0296-144-2643

浅草観音堂
美術・骨董・書画・工芸・刀剣・鏡
(株)晴雅堂清水
〒111-0032
台東区浅草2-30-11
TEL/FAX 03-3842-3777

つるぎの屋
冥賀 吉也
冥賀 亮典
東京都北区西ヶ原4-35-1
TEL 03-3576-1753
FAX 03-3576-8419

刀剣・書画・骨董 株式会社 和敬堂
土肥 富康
〒100-0001
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251(代)
URL http://www.ginzaseikodo.com

銀座 盛光堂
齋藤 恒
東京都中央区銀座5-11 銀座ファイブ2階
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

新堀美術刀剣
新堀 孝道・徹・賀将
〒105-0001
東京都港区新堀1-1-1
TEL 03-3434-4432
URL http://www.10cane.jp/~simbori

銀座長州屋
東京都中央区銀座3-10-4
TEL 03-3541-8371
FAX 03-3541-8379
URL http://www.choshuya.co.jp

刀剣研師 白木 良彦
〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228

美術刀剣松山
福岡 光男
愛媛県松山市松前町3-13-1
TEL/FAX 089-947-5177

江戸屋
代表 宮澤 琢
埼玉県新座市栗原4-6-14-203
TEL 042-438-6108
FAX 042-438-9108
URL http://www.edo8.jp

刀剣古美術 優古堂
代表 三浦 優子
東松山市高坂769-5
TEL 0493-35-5559
URL http://yukodo.net

刀剣刀装具 刀剣武蔵野
大西 敏之
茨城県利根町もえぎ野台3-5-1
TEL 0297-63-2430

刀剣研師 黒田 守寿
福岡市博多区東雲町1-4-15
TEL 092-581-1728

大坂刀剣会
吉井 唯夫
〒542-0073
大阪府中央区日本橋2-17-11
TEL 06-6663-1221
FAX 06-6664-4546

日本の至宝 日本刀
紫 光
千葉市稲毛区穴川3-11-63
TEL 043-253-0477

刀剣研師 横田 俊宏
京都市中京区西ノ京池ノ内町19
TEL/FAX 075-801-7227
URL http://www.token-kaizodo.com

研師 東京都銃砲刀剣類登録審査員
阿部 一紀
東京都文京区西片2-16-5
TEL 03-3814-8607
Eメール s454turuugi@live.jp

甲冑刀装具 福隆美術工芸
網取 譲一
東京都中央区銀座2-11-4
TEL 03-3541-8209

刀剣研師 森井 鐵太郎
〒350-1335
埼玉県狭山市相原3116-180
TEL 04-2952-6335
Eメール kennate.m@gmail.com

古美術刀剣 後藤
後藤 一乘
〒462-0059
名古屋市中区駒止町2-33-3
TEL/FAX 052-916-2583

観て触れて学ぶ
ことが出来る美術館
館長 佐藤 均
〒710-1101
倉敷市茶屋町173
TEL 086-420-0066
美術館 URL http://www.touken-sato.com
刀剣佐藤 URL http://www.j.swordnet

刀剣美術品 静心堂
代表取締役 芦澤 一幸
〒272-0826
千葉県市川市真間2-1-26
TEL/FAX 047-321-1039

公認備陽刀剣会会長 安東貿易
代表取締役 安東 孝恭
〒700-0861
岡山市北区清輝橋2-1-32
TEL 086-226-1251(代)
FAX 086-223-4969
URL http://www.katana-ando.co.jp
Eメール info@katana-ando.co.jp

刀剣刀装具 武器 イー・ソード
代表 平子 誠之
〒350-1115
埼玉県川越市野田町1-4-19 1階
TEL 049-244-6166
FAX 049-244-6140
URL http://www.e-sword.jp